

農業経営実践クラブの設立

～農業大学校の教育・研修～

❑ 設立の目的 ❑

農業経営実践クラブ（以下農業クラブ）の設立の目的は、経営感覚の強化です。これまでも農業大学校の講義や実習の中で経営指導を行ってきました。しかし、ほとんどの学生はコスト感覚などの経営感覚が養われていない状況でした。そのため、経営試算や講義だけでは不十分だと考え、解決策として取り組んだのが、農業クラブです。

❑ 現状分析 ❑

現状の問題点を分析し、「経営感覚が身につかない理由」を考えました。①まず、プロジェクト学習や実習で使用する種子、肥料等の資材は学校の予算で購入するため、資材が高くて、安くても学生は気にならず、コスト意識が身につかないと考えられました。②次に、販売についても、各コースの先生が売り先を考え作付けし、実際に販売するため、販売方法について考え工夫する環境にありませんでした。③最後に、利益を増やしても、学生の手元には入らないため、利益を増やす力が身につかないと考えました。

❑ 経営感覚強化策の検討 ❑

そこで、学生に実際に農業経営を取り組ませると、経営感覚が身につくのではないかと考えました。黒字になれば学生もお金を手にすることができ、逆に、経費がかかりすぎて赤字になれば、学生は損をするため、儲けることを一生懸命に考える環境ができると考えました。

❑ 農業クラブ設立への取り組み ❑

具体的な方法を模索しましたが、校内の土地を学生の営利活動に貸すこともできず、また、校外の圃場を借りるにしても農地法の問題で困難であり、いいアイデアはすぐには浮かびませんでした。数々の模索の末に、農業大学校に隣接している農家の圃場を活用し、農家に学生を研修生として受け入れてもらうというシステムにたどり着きました。農家へは作付け計画書の提出、研修費の支払いを行い、農家からは作付けの承諾、労賃として利益を頂きます。農業大学校は、学生の自主性を育てるため、最小限のアドバイスを行います。学生は農業大学校に対し、作付けの相談をしたり、定期的な状況報告を行います。農家からも快諾を頂き、この運営方法により、農業クラブを設立することになりました。

❑ 農業クラブ始動 ❑

学生が農業で稼ぐことができる環境が整い、学生の自主活動サークルとして農業クラブが発足しました。学生への参加希望をとり、平成23年8月に16名で始動しました。受入農家との契約も締結し、ソバ、ダイコン、カボチャなどの作付けを開始しました。



学生の変化

参加していない学生との不平等をなくすため、作業は授業時間以外で行うことがルールです。そこで、クラブ員は自分で時間を見つけ、授業前の朝や昼休み、土日を利用し、自主的に作業するようになりました。また、農業資材は自分たちで調達するため、肥料や農薬の価格を気にするようになり、経費について考えるようになりました。さらには、加工用として出荷したり、規格外品をカットして販売したり、自分たちで学校の外に野菜を販売しに行くなど、収穫した物を最後まで売り切るための努力をするようになりました。学生のアイデアは多種多様で、自ら経営することで、いい発想が思い浮かぶのだと実感しました。結果として、参加学生全員が黒字経営となりました。農業大学校では、今後も農業クラブの活動を見守り、指導していこうと考えています。



販売額と利益

面積	担当者	作付け品目	販売形態	販売額 (円)	利益 (円)
4 a	2名	カブ、ダイコン	契約+直売	44,836	40,499
7 a	2名	ダイコン、ハクサイ	契約+直売	53,700	33,642
4 a	3名	カボチャ	契約+直売	42,650	30,000
20 a	2名	ソバ	直売	98,500	70,149
1 a	1名	黒大豆	直売	5,760	5,080
2 a	1名	ダイコン	契約	27,300	22,920
2.6 a	1名	ブロッコリー	直売	54,500	41,574